



「北京五輪日本代表」和工魂で世界制覇を！！

8月8日から開幕する、北京五輪のレスリングフリースタイル60kg級に本校の平成14年度卒業生である湯元健一選手が日本代表として出場します。湯元選手は本校在学中から、山路先生の指導で、インターハイ優勝等、数々の全国制覇を達成し、現在は日体大の助手として活躍されています。

7月8日(火)、全校生徒で湯元選手の健闘を祈って壮行会を開きました。西脇校長の挨拶に続き、生徒会長上保君から「和工生の誇りを先輩と共に噛み締めることができました。日頃の練習の成果を存分に北京で発揮できますように、日本から私たちは応援し

ています。」と激励の挨拶をしました。湯元選手はお礼を述べた後「私は高校入学当時からオリンピック出場を目標に頑張り、夢を叶えることが出来ました。何事も目標を持って努力すればかなうので、君たちも頑張ってください。」と在校生へ挨拶を述べました。

その後在校生のインターハイ出場クラブの壮行会では、湯元先輩に続けと意気込みが感じられました。



昭和のグライダー 福岡に旅立つ

昭和29年工芸科(現インテリア科)3年生35名が三宅教諭の指導のもと、総工費13万円(当時)、製作期間8ヶ月を要し、卒業記念として完成させた文部省I形滑空機(通称:モンイチ)が現在に至るまでインテリア科実習棟に眠っていました。この度、福岡県朝倉市にある歴史資料館音楽館(おんらくかん)に寄贈されることとなり、7月



2日福岡に旅立ちました。写真は7月1日寄贈に先立ち半世紀ぶりに校門横で組み立てられた機体で、最後のインテリア科卒業生となる現3年生と



本校関係職員、更には三宅教諭と元グライダー部のメンバーにも駆けつけて戴き、記念撮影を行いました。

杭打ち基礎工完了

約2ヶ月に渡って行われていた新校舎建設の杭打ち基礎工の工事が、7月9日(水)最後の杭を打ち終わりました。砂質層やシルト層の軟弱地盤が29mもあるため、杭は直径約2m、長さが30mにも及ぶ杭が、32本も造られました。これは場所打ちコンクリート杭の種類でアースドリル工法といえます。施工中大型重機が連日稼働し、大規模な工事が展開されました。杭が完成した現在、地中に埋もれて全く目に触れることはありませんが、これから建設される鉄筋コンクリート造6階建ての新校舎を安全に支えてくれる重要な工事です。引き続き基礎工事

の掘方と資材運搬の為のタワークレー



ンの設置工事が並行して施工されています。



— 8月の行事予定 —

- 4日(月)・5日(火) 小型車両系建設機械検定
- 4日(月)～6日(水) 1・2・3年登校日
- 5日(火)・6日(水) 中学生体験学習
- 9日(土)・10日(日) ロボット組立講習会 (小中学生対象)
- 27日(水) 始業式